

6 京浜の森づくり事業 協働緑化事例集

(1) 修景:企業イメージの向上と地域景観づくり

鉄道駅に隣接する社有地を、地域のオープンスペースとなるよう再整備し、公開しました。

具体的には、市・区と協議しながら、ベンチや駐輪場・駐車場など事業所への来訪者と地域住民のどちらもが利用できる施設を整備したほか、市民との協働によって、1年を通して花と緑を楽しむ環境がつけられています。



市道の両側の敷地外周を緑化し、透視性の高いフェンスを設置したことで、落ち着いた沿道景観がつけられています。



植栽後長く経過して生育が良くなかった沿道の緑地帯を「地域緑のまちづくり事業」を活用して彩りある草花に転換しました。



従前の様子



(2) 活用:従業員のいこいの場づくり

使用されなくなった引込線跡地を利用して、広々した眺望が楽しめる空間をつくりました。従業員が休憩に利用するほか、市民にも開放されています。



(3) エコアップ:生きもののすみかづくり

新社屋の整備に合わせて、歩行者動線から眺められる場所に池をつくり水草を植えました。造成した年から、カルガモやトンボ類が来たほか、メダカや水生昆虫類も確認されています。



ギンヤンマのヤゴ



既存の整形された鏡池の区画を区切って水草を植え込みました。植栽後、池を訪れるトンボの種類数が増えたほか、ゲンゴロウ類などの水生昆虫も多くみられています。水の濁りは以前より抑えられ、水を入れ換える頻度が減りました。



企業の PR 施設として整備された建物の屋上に里山の雑木林を再生し、来館者に公開しています。また地上部には水田をつくって子どもたちが田植えから稲刈りまでを体験しています。

水田の様子



主要な敷地から離れて駐車場として利用していた土地を工場立地法における「環境施設」として再整備し、池・草地・畑をつくり、日中一般公開しています。隣接する事業所の環境保全林と併せて多様な自然環境が形成され、多くの鳥や昆虫類が確認されています。



大きな芝生広場の一部について夏の間草刈りを行わず、草地ビオトープとしました。内部に自走式草刈機で通路をつくり、子どもたちが虫捕りや迷路遊びを楽しんでいます。



施設整備前の自然環境調査の結果を踏まえて、海鳥の産卵環境と湿地的環境を運河沿いに整備しました。



(4) 市民参加と公開緑地:協働緑化の取組

右の写真では、事業所外周の植栽植替え、下の写真では池の水草の管理を市民の参加で実施しました。場所や日程を限定した市民参加イベントが実施できるのも、住宅地に近い横浜市ならではといえます。



公開緑地の一角に畑をつくり、企業が事務局となって畑作業や緑地の管理、自然観察を行う愛護団体を設立しました。団体としての活動日は月1回、半日ですが、毎日訪れている会員、会員の活動を見て声をかけてくれる市民などもあり、小さな緑地から地域のつながりがつくられつつあります。



事業所の緑化やエコアップの効果を把握するため、毎年夏に事業所、市民、行政が協働して「トンボはドコまで飛ばるか調査」を実施しています。この調査により、緑地間のつながりと、トンボ種類の経年変化、調査箇所ごとの環境の特性が明らかになり、専門家が参加して毎年発表会を行っています。



事業所の公開緑地に、事業所、市民、行政が協働して、樹木や花苗を植えました。



(5) 敷地外の緑に関与する

右の写真では、入口付近の道路緑地帯に事業所が区と協働して花苗を植えています。下の写真では、通勤ルート沿いに「地域緑のまちづくり事業」を活用してプランターを設置し、年数回の植え換えと管理を行っています。



末広町の最南端にある港湾緑地「水際線プロムナード」など、市民参加により植樹した場所では、定期的に「育樹の集い」が開かれ、事業所、市民、行政が協働して草刈りなどを行って、樹木の生長を見守っています。

